

第一回 城原川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会

日時：令和6年2月20日（火）

場所：佐賀河川事務所 1階会議室

委員： ウォンターストーン・ナルモン 佐賀大学 理工学部 准教授

○押川 英夫 佐賀大学 教育研究院 教授

神代 智子 佐賀植物友の会

田島 正敏 佐賀県立鹿島高等学校 副校長

鶴田 靖雄 佐賀県立佐賀北高等学校教諭

徳田 誠 佐賀大学 農学部 教授

中原 正登 佐賀昆虫同好会 幹事

山崎 章弘 日本野鳥の会佐賀支部（鳥類）

○：委員長

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 委員の紹介

4. 委員会設立趣旨（案）及び運営要領（案）について

5. 委員長の選出について

6. 城原川ダム建設事業の概要について

7. 環境調査の実施状況について

8. 今後の予定について

城原川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会 設立趣旨

城原川ダム事業は、昭和46年度より予備調査、昭和54年度より実施計画調査を開始し、平成30年4月から建設事業に移行しました。

城原川ダム事業は、環境影響評価法及び佐賀県環境影響評価条例で定める事業規模を満たしませんが、事業実施による環境影響を可能な限り低減するために、平成18～22年度に城原川ダム事業環境影響評価技術検討委員会準備会を開催しました。その後、ダム検証作業を経て環境調査を継続し、準備会委員よりご助言を頂きながら、環境影響評価法及び佐賀県環境影響評価条例に準じて環境影響評価を検討して参りました。

今後、ダム建設に伴う付替道路工事やダム本体工事に着手していく中で、ダム周辺及びダム下流の自然環境に及ぼす影響評価や環境保全措置等による低減策について、各分野の専門的な知見による指導や助言等を行うことを目的として、「城原川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会」を設立し、地域の豊かな自然環境と共生したダムづくりを目指すものです。

議事要旨：

次第 6. 城原川ダム建設事業の概要

- 試験湛水期間の環境影響の低減のため、試験湛水方法（時期・期間・伐採方法等）を検討すること。

- 原石山跡地について、昆虫類、植物、生態系保全の観点から、在来植物に考慮した緑化等を検討すること。

次第 7. 環境調査の実施状況

- 城原川ダム下流河川に生息しているスナヤツメについては、ダム供用後の河床材料の変化による影響が懸念されるため、適切な調査・影響予測を行った上で、環境保全措置を検討すること。
また、他事例を参考に、下流河川への環境影響の低減対策も検討すること。

- 当該地域において、無農薬栽培等によりシャジクモ類等の貴重な植物が生育していることを踏まえ、貴重な植物への配慮をすること。

次第 8. 今後の予定について

- 今後の検討について、下流河川の生息種に対しても適切な影響予測を行い、必要な環境保全措置を実施すること。

- 生態系陸域上位性(サシバ)の最新の調査が平成 30 年度であり、時間が経過しているため、再調査の実施について検討すること。

以 上